

# 令和6年度 第1回ユニバーサル就労推進協議会 議事録

|         |                                                                                                                                                                                                                                                                                                       |
|---------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 日 時     | 令和6年8月2日(金) 午後1:30～2:55                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 場 所     | 第2委員会室(市庁舎9階)                                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 参加団体    | <p>富士公共職業安定所、富士商工会議所、富士地区保護司会、社会福祉法人富士市社会福祉協議会、公益社団法人富士市シルバー人材センター、富士市障害者自立支援協議会(富士障害者就業・生活支援センターチャレンジ)、富士市若者相談窓口運営事業受託者(NPO 法人青少年就労支援ネットワーク静岡)、富士市ユニバーサル就労推進事業認定協力企業(特定非営利活動法人ファインケア)、ユニバーサル就労支援センター相談支援グループ運営事業受託者、ユニバーサル就労支援センター就労支援グループ運営事業受託者、富士市</p> <p>※欠席 富士労働基準監督署、富士市商工会、富士市民生委員児童委員協議会</p> |
| オブザーバー  | オリィ研究所 高垣内 文也氏                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| 傍聴人     | <p>【議 員】6人</p> <p>【新聞社】1社</p>                                                                                                                                                                                                                                                                         |
| 発言者     | 内 容                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|         | <p>1 座長(福祉部長) あいさつ</p> <p>2 連絡調整事項</p> <p>(1) 令和5年度富士市ユニバーサル就労支援センターの運営状況について<br/>【資料1】</p> <p>事務局から説明を行った</p> <p>【意見、質疑等】</p>                                                                                                                                                                        |
| 委員      | 資料3ページの(3)支援対象者が抱える主な働きづらさについて、高齢(65歳以上)に該当する方の就職決定者が15人となっているが、どのような所に就職したか伺いたい。                                                                                                                                                                                                                     |
| UW センター | 比較的短時間の業務があるような所に就職したり、健康であれば年齢を問わないといった企業に就職するケースがある。基本的には人となりを見て採用していただくことが前提となっているため、高齢でも元気であれば問題ないという企業がある。                                                                                                                                                                                       |
| 委員      | 資料4ページの(2)新規企業訪問について、今年度は42社とのことだが、訪問して何社くらいが協力企業になっていただけるのか。                                                                                                                                                                                                                                         |
| UW センター | 商工会議所のデータベースやものづくり企業データベースを基に訪問企業リストを作成し訪問をしてきたが、企業によっては複数回訪問しないと協力企業になっていただけないケースがあり、多いところでは10数回訪問して協力企業になっていただいた所もある。                                                                                                                                                                               |

|         |                                                                                                                                                                                                                                                                           |
|---------|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員      | 県の就労支援事業者機構とは関係しているのか。                                                                                                                                                                                                                                                    |
| UW センター | ユニバーサル就労の推進に関する条例をもとに市独自に行っており、関係性はない状況である。ハローワークや障害者就業・生活支援センターとは情報交換をしながら進めている。                                                                                                                                                                                         |
| 委員      | 市独自に取り組むのもいいが、各機関と連携をした方がよいのではないか。                                                                                                                                                                                                                                        |
| UW センター | 各機関と連携はしているが、職場見学、就労体験を通じて働きづらさを企業に理解してもらい協力企業に繋げていくことが多い。                                                                                                                                                                                                                |
|         | <p>(2) 「就職氷河期世代」に対する就労支援について 【資料2】<br/>事務局から説明を行った</p> <p>【意見、質疑等】</p>                                                                                                                                                                                                    |
| 協力企業    | KPIの目標値及び実績値の令和5年度実績値について、就労支援グループ全体の新規利用者214人のうち、就職氷河期世代の新規支援対象者は41人とのことだが、資料1の3ページ(2)支援対象者の年代別・男女別状況の支援対象者数と数値が異なっている理由は何か。                                                                                                                                             |
| 事務局     | 資料1の3ページの支援対象数319人は、継続利用者を含めた数値となっているため異なっている。KPIは新規利用者という設定であり、資料1の3ページ(1)支援対象者の実績の新規利用者数の数値と一致する。                                                                                                                                                                       |
| 委員      | 実際には継続の利用者もいるということでよいか。                                                                                                                                                                                                                                                   |
| 事務局     | 令和4年度から始めた事業のため、継続利用者は多くない。支援を必要としている人がどの程度繋がったことを見るため、新規利用者を指標として設定した。                                                                                                                                                                                                   |
| 委員      | <p>交付金の申請の関係でこのような表記になったとは思いますが、見にくいということや誤解を与える部分もあると思うので、数字の見せ方には注意していただきたい。</p> <p>3 意見交換事項</p> <p>分身ロボットオリヒメを活用した就労等について 【資料3】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・事務局から意見交換事項の設定理由についての説明</li> <li>・株式会社オリィ研究所から分身ロボットオリヒメについての説明</li> </ul> <p>【意見、質疑等】</p> |

|        |                                                                                                                                                    |
|--------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員     | 会話のやり取りをする時のタイムラグはあるか。                                                                                                                             |
| オブザーバー | 通信環境に依存するが、0.1～0.2秒程度のラグが発生する。音声環境が悪かったり、特に屋外で使用する時は1秒くらいのラグが発生する。<br>軽トラ市やキッチンカーで使う方がいるが、だいたいラグが出る。                                               |
| 委員     | オリヒメは借りることはできるのか。                                                                                                                                  |
| オブザーバー | 借りる方法、買う方法のどちらもある。今日お持ちしたものは、借りるタイプのもの。買うタイプの方がスペックが高く、カメラも4Kであったり、音声のスピーカーも良いものが付いている。                                                            |
| 委員     | 金額はどのくらいかかるのか。                                                                                                                                     |
| オブザーバー | 買うタイプは、本体の398,000円のほか利用料がかかる。借りるタイプは、月額41,000円となる。                                                                                                 |
| 委員     | 借りる際の費用について、行政から補助を出している事例はあるか。                                                                                                                    |
| オブザーバー | 補助を出している自治体もある。東京都では、高齢者施設へ導入する際、補助を出しており、最大240万円の補助を出している。さらに、パイロットの育成にかかる費用、雇用にかかる費用に対して30万円の補助が出るなど、手厚い内容となっている。<br>障害福祉系の施設についてはまだ補助対象になっていない。 |
| 委員     | パソコン、スマートフォンを使うとのことだが、世の中にはこれらを使うのが嫌いな人もいる。パソコン等が苦手な方に対するフォローは何か行っているか。                                                                            |
| オブザーバー | 現状できていない。ロボットを使うという特性上、何らかの機器を使わないと現状は動かすことができない。パソコン、タブレットを使う気の有る方が現状では対象となっている。                                                                  |
| 委員     | やる気があれば育てるという気持ちはあるか。                                                                                                                              |
| オブザーバー | 現状では、操作方法を教えることはしている。認知機能が低下している高齢の方でも問題なく使っている方はいる。                                                                                               |
| 委員     | 本体を購入する場合、398,000円のほか利用料がかかるとのことだが、利用料はどのようなものか。                                                                                                   |
| オブザーバー | 通信機器ということと、企業に利用してもらうということで、プライバシー等保護の関係上、サーバーを2つ経由させており、その利用料がかかってしま                                                                              |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
|--------|-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
|        | <p>う。故障等があった時のサポートも必要であり、機械が壊れて全て実費で修理するのは大変なため、利用料を修理代にも充てている。</p> <p>利用料には3つのプランがあり、1番安いのが7,700円、2番目が9,900円、1番高いのが14,400円となっており、いずれかを選んでいただくことになる。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 委員     | <p>高齢者の方も使用しているという話があったが、高齢者がカフェで働いているという事例はあるか。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| オブザーバー | <p>60代の方が働いているが、その方が65歳を超えているかは定かではない。仕事以外の用途では、デイサービスで、バーチャル旅行のようなものをオリヒメを利用して行った。機器を使うことに抵抗が無い方であれば、高齢者の方が働くためのツールになり可能性はあると考えている。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                          |
| 委員     | <p>受付や窓口といった場面での運用は理解しやすかった。一方、先程、カフェでは100人程が働いていると聞いたが、カフェでの運用方法について教えていただきたい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| オブザーバー | <p>100人というのは在籍している人数で、常時働いている人数は、予約の数に比例するが1時間当たり4人から8人程が働いている。</p> <p>動画を見た方がイメージをしやすいと思うので動画を見ていただきたい。</p> <p>(動画再生)</p> <p>大きい方のロボットは、最初の総合受付で予約の有無や、どのプランで体験するか等を聞いたり、飲み物等の配膳を行っている。</p> <p>遠隔操作でマニュアル操作を行ったり、ライントレースを付けているので、自動で運転するという方法でも使っている。</p> <p>小さい方のロボットが何をやっているのかというと、動画の光景と同じで、お客様と話をしている。オリヒメの接客を受けながら食事ができる席は予約制だが、最初に自己紹介をして、オーダーを取って、食事が来るまで会話をしている。その後、食事が来たら、食べながら会話をする。なぜこれにお客様がお金を払うかというと、今、動画に出ているのと同じで、95%が外国人の客だが、何を見に来ているかというと、外出が難しい方が働く場をどのようにして作っているかとか、遠隔操作のロボットを使って働くことでどのような心的変化があるかとか、日本イコールロボットというイメージを持って来ている人が多く、中の人(パイロット)がこのような形で働いていることに価値を感じてくださる方が来られている。こういった人達と話をすることが価値になるということで、彼ら(パイロット)の仕事の多くは話をすることとなっている。</p> |
| 委員     | <p>ロボットとユニバーサル就労を絡めて拝見させていただいたが、こういったロボットを使うことで、若者であったり、様々な事情を抱えており働けない方が地方都市に注目していただける可能性が見えた。働くということのパラダイムシフトというか価値が変わる可能性を感じた。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                             |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                      |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員     | <p>遅延があるとのことだが、NTTのIOWN構想によると遠隔地で各楽器を演奏することが成り立つくらいの技術が2030年に実用化されるということで、遅延は解決できるのではないか。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                        |
| オブザーバー | <p>NTTはスポンサーで、実はレストランはIOWNの技術を使用している。<br/>NTTが頑張ってくれれば我々も恩恵が受けられる。遅延の解決は時間の問題だと思う。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                               |
| 委員     | <p>例えばディズニーの亀のキャラクター「クラッシュ」のようなアバターでも受付作業ができるのではないかと思う。オリヒメの方は三次元の器体ということで、メリット、デメリットを分かりやすく教えてほしい。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
| オブザーバー | <p>多くの方がそこにいるという感覚になるということをおっしゃっている。福岡県で講演をした際に、オリヒメを使って働いている人が、オリヒメの中から講演をした。オリヒメの中に入った方からは、一緒の空間に居た気がしたとか、オリヒメの価値を初めて分かったというコメントがあった。<br/>顔が見えていても2Dの世界で講演をするというのは距離を感じる。物理的、身体的な移動が伴わなくても、そこに分身という3Dのロボットがあることで、なぜか人というのは同じ空間で参加をしていると感じるようだ。その理由が何かは分からないが、そこが価値だと考えている。同じことは、中で操作をしている人にも言えて、これは自分自身でも感じていることだが、大人数のZOOMの会議に参加しても、見ているだけという感覚になる。オリヒメで参加すると自分が話の中心になるというか、そこで議論している感覚となる。その感覚の部分がすごく大きいのだと思う。生きづらさを感じている人にとって、その場にいるとか属していると感じることは大事なことだと思っていて、これをうまく言語化することはまだできてはいないが、おそらく三次元的なものがある価値はそこにあるのではないかと感じている。</p> |
| 委員     | <p>発信する側は、自分の体を動かしている感覚があるのではないかと思う。<br/>聴衆側も立体があることでそこにいる感覚になるということか。<br/>その感覚は昭和に子どもの時代を過ごした身としてはよく分かるが、今の若い人達は最初から平面に慣れており、若者も同じような感覚になるのか。</p>                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                                   |
| オブザーバー | <p>その感覚は年代問わず同じことを言われることが多い。<br/>私がこの会社に入ってオリヒメの仕事をしていて、やって良かったと思える瞬間がいくつかあるが、その一つが静岡県庁での取り組みで、たった三ヶ月しかやっていないが、参加者の方に明確な変化が見えたこと。4人のうち1人の方が、自分でもこういうことが出来るという気持ちになったそうで、その後、オリヒメを使わない、その場に行く就労を実現したと聞いている。元々は自信がなく、自分ができる仕事なんてないと考えている方のようなのだが、県庁での取り組みの参加がきっかけで自信を持って、就職されたと聞いた。オリヒメを使ってずっと仕事をするのもいいが、次のステップになり得たということが個人的にも嬉しいと思ったので共有させていただいた。</p>                                                                                                                                                                                |

|        |                                                                                                                                                                                                                                                                                                              |
|--------|--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 委員     | オリヒメを使って就労というオリヒメ出勤みたいな形になるかなと思って聞いていたが、例えば、オリヒメを学校の机に置いて、授業を聞いたらオリヒメ登校にならないかと思ったが、そのような事例はあるか。                                                                                                                                                                                                              |
| オブザーバー | それを出席と認めている自治体もある。実際にオリヒメで中学、高校を通して、今大学に通っている方もいる。                                                                                                                                                                                                                                                           |
| 委員     | 授業であれば二次元でいいと思うが、生徒の方が参加している感覚が得られれば良いのかなと思った。                                                                                                                                                                                                                                                               |
| オブザーバー | <p>学習するということであれば、スタディサプリでいいと思うが、学校に行くというのは、学習以外の人との関係性など重要なことがある。病気になってしまった子とか不登校の子に話を聞いてみると、一年登校しないだけで友達の実感が変わってしまって、もう行けないということを聞くし、人と人との関係で育まれる成長が止まっているなど思うようなこともある。今、ケアラー支援をやっていて思うことは、ケアをされていて学校に行っていない子は、すごく幼い子が多い。学ぶ機会がなかったという所が問題と感じていて、教育、社会に参加するツールになり得るのであればありがたいと感じている。</p> <p>全体を通しての質問はなし</p> |
| 事務局    | 【閉会】                                                                                                                                                                                                                                                                                                         |